

海上の森講座

海上の森の意義、里山発見（現地実習）

日時：平成21年7月25日（土） 10:00～15:00

講師：木村 光伸（名古屋学院大学人間健康学部教授）

概況



1、里山学を実践するために

【里山とは】

本来、里山は、「里に暮らす」ことで形成されるもので、人の生活と里山の自然とを切り離して考えることはできない。また、人は生活のために耕作をし、山を整備してきたので、里山におけるそれら一連の活動は農業や林業などの経済基準ではくれない。里山は、長い間共同的管理が行われてきた場であるが、その形成に関わり暮らしてきた人々がなくなると、里山が誰のものかという問題が生じる。

里山と都市近郊林は、里山は「生活」するのに対し、都市近郊林は自然に触れることができるが個人的な「体験」のみにとどまるという点で異なる。また、里山の景観イメージは、それぞれの土地の自然的な特性、人工的な環境として形成された経緯などにより大きく異なる。海上の森は、かつて住民の暮らしの背景として存在するとともに、瘦悪地として自然荒廃の結果のはげ山が大面積を占めていたが、明治期に治山事業が行われたことで再生し活用され、その後の経済環境の変化とともに、ここ20年間は放置されていた二次林であり、独特の景観、特色を持っている。

【海上の森の特色と自然観】

海上の森は、シデコブシなど希少種を始め多くの生物種がみられる、砂礫や花崗岩地質が複層的に存在するなどの自然条件に加えて、地域に残存する様々な信仰が

生活共同体として密接な地縁社会を形成していたことなどが特色としてあげられる。日本では古来より、アニミズムに通ずる「共存型自然観」が「自然と人間」関係を律すると考えられてきたが、欧米（イスラムもそうだが）のように一神教的世界観に基づく「人間が自然を保護（コントロール）する」という「自然統御型自然観」が主流の地域の住民とは基本的に異なるものであり、人と自然との「共生」を考える際、この二つの自然観に横たわる大きな違いに注目しておく必要がある。

【海上の森の魅力】

海上の森の魅力は、この一箇所の森に多くの生態系がみられることであるが、ただ単に多くの生物が存在するだけでなく、それらが互いに関わり合っているということ意識しておくことが重要である。

2、海上の森実習

海上の森内を回り、植生や林分の現状を確認した。林内の植生構成と地形地質との関連や、形成の経緯とその歴史的背景や自然遷移について学んだ。また、今後の里山の活用方法や保全のあり方について各自で考え、意見を出し合った。